

観光料飲部会長報告

第4回観光料飲部会（オープン）を3月29日に29名の出席により開催いたしました。

秋田県建設部港湾技監の白井正興氏、港湾空港課調整・空港班副主幹の吉田和重氏、両名をゲストに迎え、「クルーズ振興の取組について」をテーマに懇談したほか、秋田県観光連盟観光ディレクターの鈴木郁夫氏から「インバウンド対応の取組」について情報提供をいただきました。



白井港湾技監（左）
吉田副主幹（右）

【建設部港湾技監 白井 正興 氏】

秋田県へのクルーズ船寄港は年々増加しているが、主に内航船となる日本船籍は3隻しかなく増加は期待できない一方で、外国船籍は日本市場に大型船を投入していることから、今後の寄港回数を拡大していくためには外国船籍へのPRが重要になってくる。

外航船乗船客の動向は、例えばダイヤモンドプリンセスの場合、約4割が県内のオプションツアーに参加、同じく約4割の乗船客がフリー客として秋田市内に移動しているという調査結果が示されている。行き先については角館や田沢湖方面が44%と大勢を占めており、続いて秋田市周辺の35%。男鹿方面14%となっている。大型貸切バスの保有台数が140台程度と全国ワーストであること等により短時間での大量輸送が困難な現状であり、県内の魅力的な観光資源が活かしきれず、周遊が限定的となっている傾向がある。

一方で、受入態勢の整備も課題となっている。平成30年度には過去最大の3,274名が乗船可能なMSCスプレディダの初寄港が商品決定しており、係留施設の改良等が急務であった。

官民協働組織として県が設立した「あきたクルーズ振興協議会」ではこれらの課題に対し、秋田港クルーズ列車の運行やオプションツアーの開発・造成、クルーズターミナルの整備等を積極的に実施していくことにより対応していく方針である。魅力ある観光資源を有効活用し、クルーズ船の寄港効果を全県域に波及させる取組を継続して行っていく。

【(一社)秋田県観光連盟 観光ディレクター 鈴木 郁夫 氏】

秋田県観光連盟で取組んでいるインバウンド対応については大きく二つある。

一つ目は、エージェントやブロガーの招聘である。行ったことのない土地を観光する外国人にとって、行ったことのある人の経験談は何より不安を取り除く特効薬となり得る。また、観光資源についてどんな広告宣伝をするよりも安価でPR効果の高い宣伝をブロガーが勝手にやってくれる。これを活用しない手はない。

二つ目は「指さしシート」の作成である。今回は用途に合わせて全9種類を作成したが、様々な業界からの需要も高いことから、この取組は継続していきたいと考えている。

懇談後は平成30年度観光料飲部会の活動計画について協議し、原案どおり承認されました。以上が観光料飲部会からの報告です。